

北本市政レポート No.2

発行者: 三宮ゆきお 後援会 会長 阪下 操・北本の未来を考える市民の会 会長 金子真理子 事務局 北本市東間8-171 Tel 048-542-2319

立春の候、益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。年末より新型コロナウイルスのオミクロン株が出現し、大変深刻な状況となっています。市では3回目のワクチン接種が1月から順次進められていますが、早く安心できる社会を取り戻せるよう願っております。さて、4月から新たな年度を迎えるに当たり、三宮市長にこれまでの取り組みやこれからの抱負を伺いましたので、市政レポートとしてご報告いたします。(編集部)

50周年記念に 新たな交流都市と市の鳥・野草・昆虫

編集部 コロナ禍で市政50周年記念式典が延期になりましたが、新たな記念事業の目的等を聞かせてください。

三宮市長 沖縄県宮古島市と北海道羅臼町と子どもたちの交流(小4社会科教科書に取り上げ)や観光・物産交流を目指す話し合いを進めています。11月に宮古島市は4名の議員、羅臼町は町長の表敬訪問を受け、宮古島市長とは電話会談を行いました。両市町を繋いでいただいた皆様に心より感謝申し上げます。



また、市の野草は「カタクリ」昆虫は「ハイケボタリ」野鳥は「カワセミ」に決められました。何れも関東を代表する動植物であり、このまちのブランドです。今後はその啓発や保護活動が考えられます。



シンボル冊子

福祉複合施設が中丸9丁目に 2022.4.1 一部施設開所予定

編集部 新しいタイプの施設内容についてお聞かせください。

三宮市長 社会福祉法人「一粒」による、全国的に数少ない福祉複合施設「ひおもす」が開設されます。これまで北本市には「入所型障がい者支援施設」はありませんでした。北本市の障がい者福祉行政にとって大きな前進です。なお、複合施設として翌年には「特別養護老人ホーム」も同一敷地内に建設されます。

包括連携協定等の推進で北本の活性化を

編集部 最近の主な連携先と、その意図や目的をお聞かせください。

三宮市長 (株)モンベルとの連携は、有事の際における本市の防災・減災力のさらなるアップのためです。また、イナホスポーツとは、小中学校の水泳指導や民間のプールの活用を考えての事です。これには、公共施設の再編という伏線があります。

福祉・健康増進の観点から

今年1月、北本市は北里研究所と包括連携協定を結びました。主な実施予定の事業としては「森林セラピー&健康チェックツアー」「認定看護師による講座事業」等となっています。北里研究所と包括連携協定を結べたことは、首都圏(東京・千葉・埼玉・神奈川の184市区中)で、災害に強いまちトップ3である本市のさらなるブランドカアップに繋がるものです。



編集部 さて、令和4年を迎え、就任から2年8ヶ月が経過しました。「すぐに取り組みます10のお約束」について、進捗状況などお聞かせください。

三宮市長 私の公約とも言える「10のお約束」の進捗・達成の状況は次のとおりです。【○取組み成果あり、△取組み継続中・調査中、×検討中】

1 消滅可能性都市一掃のための女性・子ども・若者1億円プロジェクト

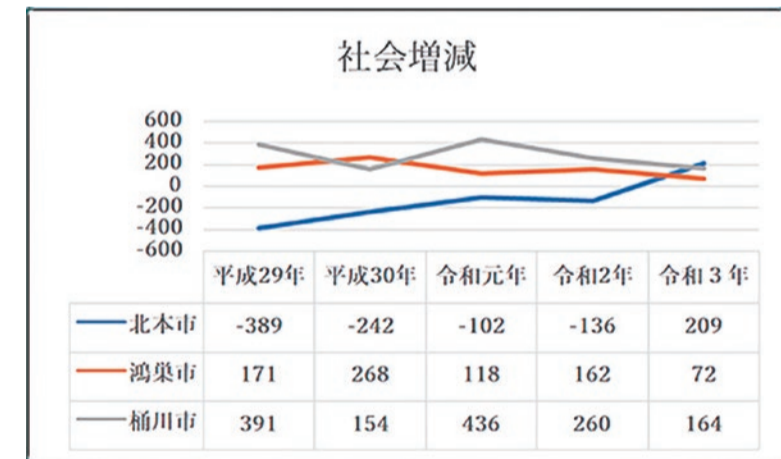
市長公室直属事業として継続中

当初の発想を転換し、一億円を使う事業から一億円を生み出す事業へ転換して取組みました。

人口減少対策を担うシティプロモーション事業は、市長直属の市長公室事業として消滅可能性都市一掃に向けての取組みを行いました。また、ふるさと納税事業も併せ直属事業としました。

※ シティプロモーション事業取組み以降

令和3年度は17年ぶりの人口社会増へ



※ ふるさと納税額の劇的増加

昨年度 埼玉県1位 6億円超えました。返礼品等の必要経費と一般会計へ1億5千万円繰り入れた残り3億5,436万円をふるさと応援基金へ積立しました。今後有効に使わせていただきます。

今年は、昨年度を上回る寄付 8億1,700万円(2021.12.31現在)を頂いています。



2 南部新駅、圏央道・上尾道路沿線開発のあらゆる調査を実施

△継続中

南部整備基金積立金が当初の目標額である10億円に到達しました。また、令和元年度には「南部地域周辺まちづくり基本構想(案)」を策定しました。今後は時代のニーズ、市民の皆様の声に応じて、この構想の具現化を検討してまいります。

3 子どもの命・学びの権利を守る「教育改革市民会議」の設置

動向注視

平成31年4月に「北本市民のいのちと心を守る自殺対策条例」が施行されました。市長着任直前です。また、着任直後の9月議会で、「北本市いじめ防止対策推進条例」が可決されています。

なお、現在議会の特別委員会で「子どもの権利条例(仮称)」がその制定に向けて議論されています。現在は、その動向を注視しています。

まちのリノベーションの観点から

昨年5月より、UR都市機構と連携し、団地のリノベーションに取り組んでいます。ジャズ喫茶「中庭」が昨年オープンしました。北本市、UR都市機構、暮らしの編集室、良品計画、MUJIHOUSEによるUR北本団地の再生のスタートです。

また、同年11月からはUR北本団地商店街に「まちの工作室」プロジェクトがスタートしました。この事業は、日本初の住宅と店舗の同時再生の取り組み事例です。11月末には大野元裕埼玉県知事の「ふれあい訪問」の視察を受け、紹介することができました。



お披露目会

脱炭素社会の観点から

昨年12月、ヤマト運輸株式会社と包括連携協定を結びました。脱炭素社会の実現に向けて、UR北本団地における日本初となる「脱炭素型共同配送」など、地域に根差した事業モデルの提案をいただきました。Eサイクルなどを活用した域内ネットワークの構築により、雇用創出・事業化・CO2の削減等を図っていきます。

新たなごみ処理施設は埼玉中部環境保全組合の事業に

編集部 進捗状況をお聞かせください。

三宮市長 来年度4月から中部環境保全組合の中に新施設の建設を担う課を開設します。構成市町から職員を派遣し、必要経費は構成市の負担金に含まれます。広域行政ですから建設計画書なども検討委員会を作って進めていくことになります。北本市は既に「脱炭素の取り組み」「財政計画を明らかに」を申し入れてあります

任期後半の行政運営で、重点に置きたい取り組みは「共生」

三宮市長 まずは、オミクロン株のコロナ対応を最優先とさせていただきます。その上で、昨年11月に村木厚子氏(元厚生労働省事務次官)にご公演いただいた「すべての人が自分らしく幸せに暮らすことができる社会づくり」を目指せればと思っています。キーワードは「共生」です。



地域共生シンポジウム

また、関東の交通の結節点、圏央道インター・上尾道路周辺への産業(企業)誘致の取組みも、とても大切と思っています。今、関係者と様々な話し合いをしています。今後は、県や国のお力もお借りしながら、前に進めたいと思っています。共生、連携は人と人がつながり活性化が図れます。今後も安心安全、元気が出るまちづくりに期待しております。



常総インター周辺視察(三宮撮影)

4 「子どもの本のまちづくり」の推進

△継続中

子ども図書館で、読書通帳の導入や新型コロナ対応として図書と図書カードを配布しました。また、市内小学校の図書館指導員の勤務日数を週2.5日から週3日に増やしました。読書の推進は心を育て人格形成を豊かにします。読書好きを育てたい。



5 高齢者(特に一人暮らしの方)・障がいのある方の元気のでる居場所づくり(全市50箇所)

△継続中

高齢者の居場所については、地域住民の皆さまや社会福祉協議会のご協力により、サロンやトマちゃん体操など通いの場を増やしています。

6 デマンドバスの利用エリアの拡大

○

隣接市町の医療機関として、埼玉脳神経外科病院(鴻巣市) 埼玉県中央病院(桶川市)への運行をすでに開始しています。

7 駅東口広場の利便性向上のため歩道部分の屋根かけ

△調査中

令和3年度に設計のための予算を計上し、利用動向調査等を実施しています。

8 市街地の中の緑の保全(宮内緑地等)

○

宮内緑地を公有化しました。既存緑地の維持・保全に努め、地域の皆様の活用を図ってまいります。



9 芸術文化と雑木林・里山をコラボした史跡回遊路の整備

△継続中

森林セラピーロードを整備し看板設置、企業(凸版印刷など)社員の福利厚生の一環としてのセラピーツアー等を実施し、好評を得ています。



セラピー散策路新看板

10 北本の暮らしの原点、「デーノタメ遺跡」の国史跡化

△継続中

二か年の調査を元に、専門家や大学教授等の知見を集約し、昨年7月に方向性を決定しました。久保特定土地区画整理事業との共存の道です。8月からは、地権者や議会の皆様への説明や報告を行いました。広報きたもと11月号で特集を組み、市民の皆様へお知らせいたしました。今後、地権者の皆様の更なるご理解と同意を得るためその準備を進めてまいります。

編集部 自己評価いただいたところ、△が多くなっています。継続する中で取り組み成果が出ているものもあるように思いますが、全体として、達成度を少々厳しくすると6割強でしょうか。

三宮市長 「先送り行政」と言われたいよう取り組んできました。まずは7割、次に8割に届くよう努力致します。

編集部 ありがとうございます。目標に向け継続して取り組んでください。住民本位の舵取りをお願いいたします。